本年度の重点目標

学校目標・経営方針 新しい時代を主体的・創造的に生きる逞しくもしなやかな心を持ち、豊かな人間性・社会性をそなえ、地域の希望となり未来となり、山梨や日本を支え、世界に羽ばたくエンジニアを育成する。

## 1 社会に適用する人間力を持った人材を育成する。 達成度 2 確かな学力の向上を図り、生徒の希望漁路を実現する。 諸活動を積極的に推進し、心身の機会育成に努める。 4 社会のニーズに対応した、教育活動を推進する。 は該達成できた。(6割以上) ご ボーケである。 (4割以上) ご 遠成できなかった。(4割以上)

## 

永田典弘

山梨県立甲府工業高等学校校長

1 できていない。

			自	己 評 価		
	本年度の重点目標			年度末評価(令和3年1月21日現在)		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	
1	社会に通用する人間力を 持った人材を育成する。	無遅刻・無欠席の基本的生活習 慣の徹底を図る。	毎日の始業前遅刻 指導と遅刻者指導の 実施と、該当者への 事後指導の徹底	学校全体の出席率は1学期は出席日数が少なかったため9 9.96、2学期は92.5%であった。在10月週末指導を撤危しており、ほとんどの生徒は遅刻が無いが、一部の生徒で指導の効果があまり見られないことが課題である。コナ 指向影響で原情や全重転講習会が中止になり、交通講話もりモートで行われたりと制約はあったが、チャレンジ12、3への参加等、交通事故、違反接域の取り組みに重点を置いて取り組んだ。1月末時点で交通事故、違反とも昨年を下回っているが、引き続きの指導が必要である。感染症対策のため1学年のインターンシップが中止になり、先生方の職場訪問なども制約を受けたが、2学年の全科と1学年整築1土本科は企業見学、現場日学会を実施する等、働く意義を自覚させ学習意欲を喚起する取り組みを行った。また、企業に来校していただき最新技術を紹介していただくなど、地域社会や企業との連携を行い、生徒には知識、技術の向上に加え、技術者としての人間性が育まれた。	В	コロナ福で無理をさせることはできないが、全ての生徒が基本的生活習慣の確立ができるよう学年・学科・部活動等で連携しながら日々の指導を継続する。 「交通違を・事故の」を目標に、特に自転車利用者のマナーアップと登下校時における事故防止に力を入れた指導を徹底していく。スマホの使用方法も含め、全ての生徒が安全に関する資質にあったのに、全教のでは、ないないでは、ないない、コロナ福で制約はあるが、感染症対策を十分に取った上で、地域・企業の人的・物的資源を生かした取り組みを進め、生徒の技術者としての人間性の涵養に取り組む。
		規範意識や社会性の高揚を図る。	免許取得希望者へ の指導と、交通事 故・違反生徒への指 導の徹底 情報モラルの確立			
		地域社会や企業との連携を図る。	企業現場実習及び ポランティア活動の 実施			
2	確かな学力の向上を図 り、生徒の希望進路を実 現する。	主体的・対話的で深い学びの授業 (アクティブラーニング)を実践す る。	相互授業参観及び 研究授業の実施 授業改善と生徒の基 確基本の充実	「TECHーAスキル」の育成を学力向上につなげるため、各教科・学科で授業研究を進めた。目標や到達点を意識し、そのための授業づくり、ループリックを取り入れた多面的な学習評価に取り組んだ。コロナ禍でツーシャルティスタンスを意識しながら『ま体的・対話的で深い、学びといかに達成させるかを大きなテーマとし、遠隔授業によるTimesのスキルやICT技術も取り入れながら、新たな授業づくりに試行錯誤を繰り返している。また、来年度から新学習指導要領の3観点による評価の早期導入を目指し、研修会を開くなどの取り組みを行っている。 コロナ禍で就職は昨年度に比べ厳しく、1ヶ月就職開始時期が遅れたこともあり、現時点では就職希望者生全	A	全ての教科・学科で、新しい生活環境の中で の授業研究を進め、主体的・対話的で深い学び をいかに実現させるかに取り組む。個々の教員 が授業アンケート結果をフィード・バックし、各自 の授業改善に役立てているが、相互授業参観 の実施率の改善は課題である、来年度は新学 習指導要領の3観点による評価を取り入れ、1 年かけて研究改善を行う。 就職及び進学希望生徒の第1希望合格率 100%を目標に、キャリア教育の推進、専門知 識・技術の向上、就職・進学対策指導を更に充 実させる。コロナ福により就職・進学共により厳 したを増すことも想定し、早い段階から生徒への意識付けは大切である。やまなしキャリア・パ スポートが開始されたので、周知徹底を行う。国 公立大学への進学は今後更に力を入れていく 必要があり、全日制専攻科に対しても、引き続き 重きを置いた指導をしていく。
		就職希望生徒の第1希望内定率 100%を達成する。	面接及び作文指導 の充実			
		進学希望生徒の第1希望合格率 100%を達成する。	面接及び小 <b>論</b> 文指 導の充実	られていないが、近く達成の見込みである。生徒の第一希望 への就職内定率は91.5%に留まったが、公務員合格者は近 年では最多の18名となった。 進学対策として、数学、英語及び物理の課外授業を実施す るとともに長期休業中の補習授業を行った。更に個別指導に も力を入れたことから、大学への進学も順調であった。全日制 専攻科にも18名の生徒が合格となった。		
3	部活動を積極的に推進 し、心身の健全育成に努 める。	部・委員会活動をより活発に展開 し、豊かな人間性を育成する。	年間指導目標・年間 指導計画の作成 生徒へのきめ細やか な指導の確立	部・委員会活動ができない期間が3カ月間続き、大会の中止などで生徒にとっては酷な時間が続いた。ただ、その期間を経験することで活動ができることのありがたきを感し、代替え大会等での活躍も見られた。今後も新たな生活習慣の中で、感染症対策等を徴度した部・委員会活動では、各顧問が年間指導目標・指導計画を作成して部員に提示するとともに、人間教育に重点を置いた指導を継続している。外部人材を招いての講演会を行いにくい中、家庭科・保健などの教科を中心に健康、安全や食に関する問題を取り上げた。部活動や委員会などでも、怪我や食に関する知識を高め、自己管理能力を養った。	A	コロナ福の部・委員会活動の在り方を引き続き探っていかなねばならない。人間教育を推し進める為の活動を継続させるためには、常に感染対策を意識することが大切である。また。限られた活動となる為、科学的な練習メニーの研究や練習の効率化など、量ではなく質で人間性を高めることを目標に指導を行う必要がある。コウ・福の状況にもよるが、講演会など全体での行事を企画し実行できるかを検討する必要がある。健康・安全に関する知識を育むとともに、健康管理や食の安全を含めた自己管理能力の育成に引き続き取り組む。
		健康、安全や食に関する知識を高 め、自己管理能力を養う。	各種騰演会の実施			
4	社会のニーズに対応した、教育活動を推進する。	SPH・専攻科事業を推進する。	SPH事業と、開設された事攻科の高度な 事門教育の推進	SPHの研究指定校として4年目となり、教育の質の向上に 資するよう、全教科・学科を通じて授業方法や評価方法の研 究に取り組んだ。感染症対策もあり、成果発表会は実施方法 を再検討している。移動が制限される中ではあるが、専攻科を 中心に、技術連携交流をや視察なども行った。コロナ禍によ り、地域との連携は難しい状態である。 大韓民国清州工業高等学校の交流は本年度中止となり、 来年度に関しても未定の状態である。 資格検査やものづくりコンテスト等が中止になるなど様々な 面で成果を上げにくい状態となった。夏休み以降、県内の開催 された大会では生徒が結果を残すと共に、他県の大会にも積 極的に参加した。 コロナ福の関係で、本年度は管理職のみの中学校訪問を実 施し、本校の理解を深めていただく活動を行った。8月に実施 したオープンスクールと部活動体験は中学生のみの参加とな る等、変更が余儀なくされたが、2日間で800名を超える生徒	В	来年度のSPH事業は、最終年度となり集大成となる。コロナ禍が続く可能性も含め、どのように推進していくのかを早期に計画する必要がある。成果発表会は、生徒が得ることが多いので感染症予防を徹底する中で昨年のような発表会は、生徒が得ることが多いので、
		適正な国際理解教育の実施。	韓国姉妹校清州工 業高校との交流			を実施し、より多くの生徒にSPHの思恵を与えられないか検討すべきである。また、令和4年度 以降にSPHの取組結果をいかに継続していくかも計画していかなければならない。 姉妹校の清州工業高校との交流は、世界のコロナ感染状況を見ながら検討していく必要があ
		各学科ともメインの県内コンテスト で優勝を達成する。	早朝放課後課外、長 期休業中の指導計 画と実施			る。 各学科に関わる県内外のコンテストが開催されるか否かは定かでないが、技術を身に付けることは将来にとって必要な事だということを生徒に理解させ、目標を持って取り組ませることが大
		信頼される学校づくりを推進する。	「学校評価アンケー ト」「オーブンスクー ル」「授業公開日」の 実施 PR活動の強化	の参加を得た。五葉祭が体育祭のみとなり一般公開ができ ず、授業公開も感染症対策で行えなかったためPR機会は減っ てしまった。ホームページ等の充実を行い外部への情報発信 をしていく必要がある。		切である。 様々な交流が難しい状況にあるが、オープン スクール等は続けていくべきである。広報誌・ ホームページなどの情報発信が更に重要になる で充実を図っていく必要がある。

	学校関係者評価
ST IN	実施日(令和3年2月3日)
評価	意見・要望等
で工期 "発れをせ" 保面 : うい	開年通り、非常に出席率が高いことは学校への魅力が高いことを 此めます。今年はコロナ禍でインターンシップ等の中止など、企業 働くことの動機づけへの影響も危惧されましたが、先生方の努力・ 夫で企業・現場見学が実現できたことは今後の生徒への好影響と 持できます。 交通事故の減少対策について要望したところ、学校独自に過去に 生した事故の所時間・場所・原因』等を分析していただきました。そ を基に、登校指導の場所の追加や適切な時期でのプロジェクター 活用した生徒への指導などを実践し、昨年度に比べ事故を激減さ たことは素晴らしいと思います。 コロナ禍の1年間、安全対策や連絡の徹底、学校行事や授業の確 に割活動のもり方等、日々の対応に追われたことと思います。多方 に渡るご配慮ご苦労様でした。 ・番目動の名が方等、日々の対応に追われたことと思います。多方 に渡るご配慮ご苦労様でした。 ・番目のな行かないことからの学びもあるので、是非大切にして ただければと思います。
や幅た多『施』した『し者育)修取』で <b>4</b>	コロナ禍での困難な状況でしたが、教職員のエ夫・努力で遠隔授業・過去にない授業展開が生まれたことは素晴らしい。今後の授業のを広げることにもなり、更なるエ夫・発想で生徒の自主性を尊重し授業を進めていただきたい。また、コロナで業績の下がった企業もく、即戦力の人材育成はたれまで以上に必要だと思います。就職・進学共に第一希望合格を目標のキャリア教育・専門教育を実し大きな成果を上げていると思う。本年度就職の定率100%は達成できそうですが、来年度は更に厳ななると予想されます。資格取得に更に力を入れ、専門性を生かし、進路指導を望みます。 国公立進学希望生徒の指導が難しなっていることはよく分かりまたが、先生方が課外・補習・個別指導を行っている中、国公立進学で口は残全です。中学生の影響が大学への進学を希望する中、教課程の見直しも含め根本的な対策が必要かもしれません。ルーブリックを取り入れた評価が行えるということは、これまでの履主義から修得主義への変化だと思います。教師にとっては大変ないり組みだとは思いますが、引き続き導入の拡大を期待します。私の経験でもありますが、、遺路決定は生徒との話し合いを大切にしほしいと思います。
導感に~すの**の**対も	部活動が制限された今年でしたが、その中で人間教育中心とした指 を行い、健康・安全にも配慮した活動ができたことは大きな成果と 北ます。また、『生徒の意』を汲んだ活動を行ったことは生徒の成長 大きく寄与したと思います。 を部活動はよく頑張り、全国大会出場や、全国出場チームに惜敗 るなど全てのレベルが上がっていると感じます。今後は全国制覇 目標や甲子園出場を達成できるような指導育成を望みます。 全国募集体が貼場もとでが来年度はゼロとのこと。同窓会、PTA 協力も得ながら来年は制度を活用していただきたい。 科学的な練習メニューや戦略を考えることで、スポーツをテーマに 話的で深しずひを構築することは甲府工業のオリジナルの活動に つながると思います。
け研意取な"後がし、り流夫」会滅いを	SPH事業もコロナの影響で地域連携や企業との交流が制限を受、大変であったと思います。その中でも工夫を凝らしながら着々と 突を進め、オンラインではありますが成果発表会ができたことに敬 を表します。また、年度前半に機会が失われた資格取得を後半で・19組み結果を出したり、開催されるコンストに積極的に参加するど、生徒にとつては今後の自信につながったと確信します。今年はコロナ禍という初めての経験で大変だったと思いますが、今しばらくはこの状況が続くと思います。行事や交流等は更なる工夫必要となりますが、生徒との話し合いを大切にして、各活動を推進でいただきたい。 SPH事業もあと1年、大変だとは思いますが、その後を見つめた取組からを行ってください。20年以上続いている青洲工業高校との交はネット利用も必要かと思います。様々な行事もこれまでに無い工をしていって下さい。コロナ鍋で社会でもに下を使う場が増えています。大学でも授業や満はオンラインが主流です。オンラインを導入することで労力がったり、遠の人とつながることができます。コロナで大変なことも多ですが、逆ににす利用する挑戦行っていってほしいと思います。